平成３０年度　〔　**保健体育科研究構想図**　〕　恵那市立恵那西中学校

〈全校研究主題〉　**生き生きと学び続ける生徒の育成**

～主体的・対話的に学びながら，一人一人が課題解決できる授業づくりを通して～

〈保健体育科の生徒の実態〉

○自己の技能を高めたいと願い，運動に意欲的に取り組む生徒が多い。
○賞賛の拍手や声かけをする姿が多くみられるなど，仲間と関わり合いながら学習することに楽しさを感じて取り組む姿が増えてきた。
○提示された技術ポイントを意識して，粘り強く課題解決に取り組めるようになってきた。
●自分や仲間の姿を客観的にとらえる力（運動の見方・考え方）が不十分なため，技能が効率的に高まらないことがある。
●分析結果から技能について教え合ったり，具体的なアドバイスを伝え合ったりする力に弱さが見られる。

＜授業で生み出したい姿＞

〈主体的・対話的な姿〉

＊「自分の姿を向上させたい」と願いをもち，仲間と協力し合い，意欲的に運動に取り組む姿。
＊課題達成のためのポイントを理解し，言語活動を中心とした相互援助活動を通して高め合う姿。
＊他者との違いに配慮し，それぞれの能力に適した課題解決に向けて協働的に取り組む姿。

〈課題解決できる姿（深い学び）〉

＊自己の能力やチームの特徴を分析し，技能について言葉や動作等を用いてアドバイスし合う姿。
＊課題の到達度を確認したり，新たな課題を設定したりして，自己やチームの能力に応じた運動の楽しみ方を見つける姿。

〈保健体育科研究主題〉

相互援助活動を通して，主体的に運動に取り組む生徒

〈研究主題設定の理由〉

昨年度の研究では，単元構造図を作成し，指導内容を整理したことで，1時間ごとの指導の方向を明確にもつことができた。また，生徒の学びの実態を踏まえた課題提示をすることにより，生徒の目的意識と課題が一致し，主体的に運動に取り組む生徒が増えてきた。特に，仲間と関わり合いながら学習することによって，楽しさや嬉しさを感じて，意欲的に運動に取り組む生徒が増えた。その反面バスケットボールなどめまぐるしく状況が変わる運動では，課題とずれた話し合いが行われたり，勝敗だけに目が向きゲーム記録を上手く活用することができなかったりと，技能が効果的に高めるための話し合い活動ができなかった。

そこで，体育科の考える「主体的・対話的な姿」を，「仲間と協力し合い，互いの試技を見合いアドバイスしあう活動を通して，技能を高めようとする姿」と捉えた。また，自分や仲間の試技や記録を分析したり，自分の試技や記録をもとに新たな課題を生み出し，仲間と協力して課題を解決したりしていくことを繰り返すことで，うまくなる喜びと運動する楽しさが実感できると考えた。また，試技などの運動の見方を身につけ，仲間へアドバイスしあうことができれば，技能が効果的に身についていくのではないかと考え，本研究主題を設定した。

＜研究内容１＞

「習得」と「活用・探究」の学びのつながりを明確にした単元構成の工夫

・身に付けさせたい運動技能を分析し，段階的に技能の高まりが実感できる指導計画を作成する。
・既習事項を踏まえ，運動種目の単元を貫く課題を設定し，そこへ向かうための指導内容のまとまりを整理することで，単位時間のねらいや役割を明確にする。

＜研究内容２＞

一人一人が課題解決できる手立ての工夫

①　一人一人が課題解決に向かうための主体的・対話的な学びを促す工夫

・単位時間の「めざす姿」を明確にし，課題解決につながるポイントや練習方法を焦点化して示す。
・改善すべき課題を見つけたり，適切な練習方法を選んだりできるよう，思考の場を位置付ける。

②　学びの状況を実感できる授業終末の工夫

・到達度を数値化し，客観的な出来映えとして動きの高まりが実感できるようにする。

研究の基盤（確かな学級経営と教科横断の共通指導，PDCA サイクルを意図した指導）

①互いに認め，高め合える学級集団の育成　②生徒の自治的な活動の推進　③基礎・基本の定着